

平成29年度学校評価計画に対する最終評価報告書

石川県立金沢向陽高等学校

重点目標	具体的取組	実施状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
1 基本的な生活習慣の確立 規範意識を高め、遅刻欠席をしない、挨拶をきちんとするなど基本的な生活習慣の確立した生徒を育てる。	① 遅刻の防止 全職員による登校指導や頻回者への意識改革指導を通して、基本的な生活習慣を確立する。	遅刻者が1日に A 4人以下 B 7人以下 C 10人以下 D 11人以上 昨年度：4.3人	B 5.4人 1年 1.7人 2年 2.0人 3年 1.7人	全学年において2学期後半に増加した。冬季の天候不順（降雪）も一つの要因であるが、進路決定により気の緩んだ3年次生や、目標を見失っている1・2年次生の遅刻が目立つ。保護者の協力を得ながら、それらの生徒への指導・助言を積極的に行い、遅刻者減少に努めたい。
	② 欠席の防止 きめ細かな指導や保護者との連携等により、欠席を減らし、学習意欲の向上を図る。	欠席者が1日に A 10人未満 B 20人以下 C 30人以下 D 31人以上 昨年度：18.3人	B 19.8人 1年 6.4人 2年 5.8人 3年 7.6人	全体で昨年より1.5人の増加である。1年次生、3年次生で不登校傾向の生徒がいたことや年明けの天候不良も影響していると考えられる。今後も学年、相談室、保健室と連携し、保護者の協力も得ながら、きめ細かで粘り強い支援を継続し欠席数を減らしていきたい。
	③ 決められたルール（校則等）をしっかりと守る。	私は、校則等のルールをしっかりと守っている。 A よくあてはまる B ほぼあてはまる C あまりあてはまらない D あてはまらない 昨年度：86%(A+B)	A+B 89% 1年 87% 2年 88% 3年 92%	ルール遵守の生徒意識は89%と高い水準となっているが、実社会で必要とされる公共マナー（交通・飲食・携帯）に関しては十分なレベルとは言い難い。次年度も学校行事、集会、個別指導等で今年度同様に規範意識の向上に努めたい。
	④ 悩みや課題を持つ生徒（保護者）に対してきめ細かな対応と支援を行う。	教師や相談室は悩みの解決に向けて A 支援してくれた B まあまあ支援してくれた C あまり支援してくれなかった D 支援がなかった 昨年度：72%(A+B)	A+B 69% 1年 70% 2年 61% 3年 76%	昨年度の72%と比べ、少し減少している。いろいろな家庭事情の生徒がいるため、今後も相談室・保健室・担任と連携して、安心して何でも相談できるような環境を準備していきたい。
学校関係者評価委員会の評価	・遅刻、欠席については、記録的な大雪があったにせよ昨年度より悪くなっているのが気にかかる。生徒は校則等のルールは守っているようなので基本的な生活習慣の確立を目指すなら、遅刻、欠席の減少は不可欠である。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針	・本校の特徴である二人担任制を今後も継続し、生徒ひとり一人にきめ細かい指導を実践していく。 ・保護者との連携を密にし、問題を抱えた生徒に対しては担任一人でなくスクールカウンセラー等のアドバイスを受けて、チームで素早く対応していく。			

重点目標	具体的取組	実施状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
2 授業改善と3年間を見通した進路指導 落ち着いた学習環境のもと学習意欲と基礎学力の向上を目指し、3年間を見通した進路指導の実践により生徒の進路実現を図る。	① 復習や予習を促し、家庭学習の習慣化を図る。	授業以外の学習時間が「90分以上」の生徒が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 昨年度：30%	D 32% 1年 32% 2年 30% 3年 33%	本校では授業の評点を定期試験の成績だけではなく、日頃の学習の取り組みを重視し総合的に評価している。今年度は加点対象の課題が増えた分、若干ではあるが学習時間が増えたのではないかと考える。今後の家庭学習の習慣化に繋げていきたい。
	② 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進する。	授業を理解できるとする生徒が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 昨年度：61%	C 68% 1年 69% 2年 59% 3年 76%	生徒の主体的学びの実現を目標に、年2回の相互授業参観の実施、ICTの活用やアクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善に取り組んできた。そのような積み重ねの成果が授業理解の上昇につながっているのではないかと考える。次年度も更に工夫を重ねていきたい。
	③ 3年次生の進学希望者に対し、個々に応じた指導を実践し、進路実現を図る。	第1志望校への進学が実現した生徒が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 新規	B 88%	進学希望者のうち50名が第1志望校への進学を実現した。進学希望者には、1年次から高い進学意識をもって努力する指導を続け、学習指導・学部研究に取り組んだ。今後は学力アップのために、計画的な取り組みを実施していきたい。
	④ 3年次生の就職希望者全員の就職内定100%を目指す。	学校紹介による就職内定率が A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 80%未満 新規	A 98%	就職希望者のうち、43名が学校紹介による就職内定を得た。就職希望者には、インターンシップ・マナー指導・応募前見学・模擬面接等を計画的に行い、就職内定率は100%であった。今後も、ミスマッチの防止など、就職後も見通した指導・助言に努めていく。
	⑤ 総合的な学習の時間やホームルーム活動、学校行事、日々の授業を通して、キャリア教育を推進する。	キャリア教育に係る行事についてのアンケートで、肯定的な結果が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 昨年度：84%	C 64% 1年 72% 2年 53% 3年 69%	本校は、1年次のジョブカフェ訪問や大学見学、2年次のインターンシップ参加、3年次の企業ガイダンス参加など、3年間を見通したキャリア教育を実施している。しかしながら、それらの取組を自分自身に関係することとして受け止められず、受動的・消極的になってしまう生徒が少なくない。各自が卒業後の進路について、自ら考え、行動する姿勢を育てていきたい。
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・学年の半分の生徒が進学希望なのに授業以外の学習時間が少ないことは問題である。 ・生徒が授業に集中しかつ家庭学習時間を増やすには、1年次から将来を考え目標設定をさせる必要があると思われる。 			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な個人面談を充実させるとともに総合的な学習の時間を活用し将来について考えさせ進路目標を明確にさせていきたい。 ・ICTの有効な利活用やアクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善を図り、わかる授業の実践に力を入れていきたい。 			

重点目標	具体的取組	実施状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
3 部活動の充実 全員加入による部活動の一層の活性化を推進し、心豊かな人間性と社会性を身につけた人材を育成する。	① 新入生全員が部活動に加入するよう指導し、かつ継続的なものにするため、中途退部者に対しても、面談等を通して他の部活動への再入部を強く勧めていく。	1・2年次生の部加入率が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 昨年度：59%	C 61% 1年 81% 2年 44%	年度当初より、1年次生に対して部活動加入を指導した結果、加入率が高いまま推移した。2年次生は新しく入部した生徒がわずかにいたものの、加入率を大きく上げるまでは至らなかった。学校活性化の面からも部活動に参加する生徒を維持し、2・3年次生からでも部活動に加入できるような環境を整備したい。
	② 全員が部活動に主体的・積極的に取り組む。	部活動について A 休まずに参加している B ほぼ休まずに参加している C ときどき参加している D 殆ど参加していない 昨年度：59%(A+B)	A+B 59% 1年 69% 2年 42% 3年 67%	女子バドミントン部が全国高校総合体育大会において連続30回出場を果たす等、実績のある運動部の活躍が注目された。一方、部員数の減少しつつある運動部や文化部もあることから、学校としても継続的な部活動に向けできる限り支援し、活力ある学校としていきたい。
	③ 積極的に部活動の指導に携わり、学校の活性化に寄与していく。さらに、部活動の指導力向上にも務める。	部活動の指導について A 積極的に支援し指導している B 概ね支援し指導している C あまり支援したり指導していない D 殆ど支援したり指導していない 昨年度：65%(A+B)	A+B 69%	部活動に参加している生徒に対して、励ましや人間性の向上等の観点から支援指導している。今後も、生徒が充実した部活動が継続できるように、指導のあり方や活動日時等について、各部活動の顧問や生徒会室と連携・協力していきたい。
学校関係者評価委員会の評価	・バドミントン、アーチェリー部を中心に部活動を活性化し、学校を盛り上げてほしい。特に、バドミントン部の石川県高校総体団体30連覇は大変立派である。この記録が継続するように学校もバックアップしてほしい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針	・年々、部活動加入率が運動部、文化部とも低くなっているのは非常に心配である。本校において部活動は、とても重要な教育活動と認識しているので1年次生の全員加入など、継続して部活動の活性化を目指していきたい。			

重点目標	具体的取組	実施状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
4 地域交流の促進による学校の活性化 生徒のボランティア活動や学校開放及び情報発信などの地域交流を通して、保護者や地域に信頼され評価される学校づくりを行う。	① ホームページの更新を分掌ごとに行うとともに、学年だより等による情報発信も行う。	保護者がホームページを定期的に見る。 A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満 昨年度：35%	D 23% 1年 31% 2年 30% 3年 23%	昨年度に続き、今年度も低い数字になった。学校行事等、随時HPで紹介し、各部活動の大会成績や普段の活動状況などはこまめに更新している。学年便り等もホームページにアップし、保護者に学校の様子について詳しく伝え、積極的に情報を発信して行きたい。
	② 福祉施設訪問やボランティア活動の実施などを通して、地域との交流に積極的に取り組んでいく。	ボランティア活動など地域との交流に関する事業に A 積極的に参加している B 充分とはいえないが、おおむね参加している C あまり参加していない D 全く参加していない 昨年度：86%(A+B)	A+B 51% 1年 60% 2年 35% 3年 59%	昨年度86%であり、今年度はかなり減少した。周辺地域や森本駅からの通学路の清掃、JRC部を中心とした近隣町会での除雪活動、吹奏楽部恒例の「湖陽夏祭り」参加などを通し、地域との交流に積極的に取り組んでいきたい。
	③ 文化祭などの学校行事や学校開放の情報が地域住民に行き渡るようにする。	地域住民が学校の行事等に参加しやすくなるための体制が A 十分に整っている B おおむね整っている C あまり整っていないとはいえない D 全く整っていない 昨年度：54%(A+B)	A+B 34%	昨年度54%であり、20%減少した。ホームページだけでなく、地区公民館等の協力を得て、文化祭や教育ウイークなどの情報を提供したが、地域住民の参加者数は少なかった。今後は、地域の町内会等と情報を交換し、参加者増加を目指したい。
	④ 図書館を開放し学校と地域住民の交流を促進する。	地域住民が図書館の行事に参加する数が A 70人以上 B 50人以上 C 30人以上 D 30人未満 昨年度：71人	A 88人	昨年度から17人増え、図書貸出数は倍増した。地域回覧板にて個別家庭に行事案内を配布したことや、読書センターとして愛好家に応える蔵書づくりを行ったことが奏功した。来年度はPCの配置とそれによる蔵書・書籍検索等で利便性を高めていきたい。
	⑤ 指導に関する情報交換や学校行事への参加等を通じて、保護者との連携を深め、保護者の学校への信頼を高める。	学校の指導に対する保護者の満足度が A 85%以上 B 75%以上 C 65%以上 D 65%未満 昨年度：80%	B 82% 1年 77% 2年 83% 3年 85%	昨年度80%であり、2%増加した。2・3年次生の満足度が昨年度より増加しており、学年を追うごとに保護者の学校への信頼が高まっていると考えられる。メール配信システム等を活用し、学校の教育活動について随時情報を提供し、学校の取り組みに対して理解を求めていきたい。
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを見る保護者が少ない。学校を地域、保護者にアピールし理解・協力を得るためにも対策が必要である。 ・地域住民には本校のボランティア活動の実態が伝わってこない。 			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針	<ul style="list-style-type: none"> ・なぜ保護者はホームページを見ないのか、生徒は見ているのか、調査を行い原因を考えたい。 ・ボランティア活動において、地域との連携を密に取り組んでいきたい。 			